

## 「福島県百番附」

『福島県百番附』は大正 11(1922)年、大和久治が福島県における百種にも及ぶ各界の番付を一冊にまとめた、往時の福島県の世情が窺える資料である。

番付とは、様々な事象や人物を、優劣や人気の順に、横綱、大関、関脇・・・と相撲番付の体裁で表したものであり、現在でも温泉番付などを目にするところがある。ランキングとは違い、客観的な数値に基づく位付けはではないことが多く、選定者の思惑が反映されている。また、特別な大物や、圧倒的優位者などは取締、行事、勧進元として序列から外し、別格として扱うことがままある。本書の但し書きには「ご不満の点がありましても『番狂わせながら自分も番附に乗って居るナ』位の処でご笑覧くださいをお願い致します」とあり、番付掲載者への配慮も窺える。

さて、この冊子の表紙をご覧いただきたい。写真の番付は、「福島縣の名物番附」である。横綱である温泉の飯坂、羽二重の川俣を筆頭に、特産品（新田川の鮭）事件（師範のチブス）風土（相馬の夜這）建物（日本銀行の建物）自然（会津の磐梯山）人（愛妻家の内務部長）などが渾然一体としており、福島県の名物が一目瞭然である。今でも有名な事柄もあれば、時代を経てすっかり意味がわからなくなってしまった事柄もある。

他にも、いくつかの番付を東西の横綱とともに紹介すると、「福島県成功家番附(野口英世、星一)」、「福島店頭装飾番附(中村呉服店 = 現在の中合、津野呉服店)」、「福島附近名所番附(信夫山公園、文字摺観音)」などといったものがある。

次に、一人の人物に焦点を当てて番付をみていこう。岡野足吉は、『福島県史』などによると、「明治 4 年三春に生まれ、福島県工業試験場職員として、本場福井県で学んだ染織技術を県内に広め、その後、福島羽二重会社を設立し、大正 15 年から昭和 17 年まで福島市助役を務めた」バイタリティ溢れる人物であったが、それは番付にも現れている。福島社交番附(横綱) 福島色男番附(小結) 福島実業家番附(前頭 3 枚目) 福島成功家番附(同 3 枚目) 福島撞球家番附(同 5 枚目) 福島禿頭番附(同 6 枚目) 福島蔵幅家及鑑賞家番附(同 6 枚目) 福島縣事業家番附(同 17 枚目) 福島名物男女番附(同 22 枚目) 福島縣美髯家番附(同 31 枚目)

福島愛鳥家番附(取締)と、なんと 11 もの番付に登場している。『福島縣百番附』刊行時の岡野は、51 歳。好況な会社の経営者として人生の充実期だったのだろう。巻頭に顔写真が掲載されているが、なかなかダンディな人物であったようだ。

本書の前書きでは、新聞記者をはじめ六十余名の審査員による番付編成であると、その客観性を訴えているが、後ろ半分はすべて商業広告であり、その広告主が番付にかなりの頻度で登場する。また、番付自体も地理区分すると、福島市 55、福島県全域 26、いわき市 6、会津若松市 5、郡山市 4、全国 4 と福島市に多く偏っている。

他にも地域資料としての番付は、福島市史別巻『福島文化』に掲載されている『伊達信夫和歌花相撲番附』をはじめ、『福島県管内将基番附』、『伊達郡大養蚕家番附』、『福島市百番付』等がある。一般的な番付の成立ちから種類に関しては『番付集成』が、大正から昭和にかけての全国的な番付としては『社会万般番附大集』が詳しい。これらの図書も所蔵しているので、併せてご覧いただければ幸いである。

地域資料チーム：遠藤豊